

医薬保健学総合研究科 創薬科学専攻

【授与する学位】博士（創薬科学）

大学（大学院）の目的	学類（研究科）の教育研究上の目的
<p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>	<p>医薬保健学総合研究科は、医学、薬学及び保健学の教育、研究及び診療を通して、地域貢献、世界への情報発信並びに優秀な高度医療人、研究者及び専門的職業人を養成及び輩出することを目的とする。</p> <p>博士課程創薬科学専攻は、創薬科学分野における最先端の知識と高い研究能力を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。</p> <p>博士後期課程創薬科学専攻は、創薬研究におけるリーダーの養成を目的とする。具体的には、製薬・化学企業における開発研究者、公的機関での研究者、大学教員、行政担当者（医療・厚生・薬事・環境等の分野）などとして世界的に活躍する人材を養成する。</p>

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】
<p>本課程では、薬学を中核に据えた創薬科学分野における最先端の知識と技術ならびに高い研究能力を修得し、国際的視野で活躍できる人材を育成することを目的としている。</p> <p>必要な研究指導を受け、講義科目群を履修して所定単位数以上を修得し、英語能力試験において所定の基準を満たすことが求められる。また、研究成果が審査付きの学術誌に公表されることが求められる。研究成果を記述した学位論文の作成と口頭発表・討論により、その内容が審査され、審査に合格した学生に、博士（創薬科学）を授与する。</p>	<p>本課程では、薬学を中核に据えた創薬科学分野における最先端の専門知識と高い研究能力を兼ね備えた人材を育成するため、先鋭的なカリキュラム構成を採用している。</p>	<p>本課程では、薬学を中核に据えた学問分野（薬学・医学・保健学関連）に関する最先端の知識や技能と高い研究能力の醸成を目的とします。</p>
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
<p>（1）創薬科学研究者として必要な、高い倫理観、最先端の専門知識と技術、幅広い見識、ならびに高い研究能力を身に付けている。</p> <p>（2）国際社会で活躍できる情報収集・発信能力とコミュニケーション能力、国際感覚及び専門英語能力を身に付けている。</p> <p>（3）創薬科学研究者として、課題発見から課題解決に向けた創薬科学研究を指導的立場で遂行することができ、高い独創性と新規性を有する最先端の研究活動を通して、創薬科学の発展に貢献できる。</p>	<p>1. 教育内容</p> <p>（1）研究課題の遂行に必要な高い倫理観、最先端の専門知識と技術、幅広い見識を修得する。</p> <p>（2）文献読解能力、説明能力を修得する。また、国際社会で活躍できる専門英語力を修得する。</p> <p>（3）創薬科学研究活動を通して、課題設定能力、課題解決能力、研究推進能力、論文作成能力、プレゼンテーション能力を修得する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>（1）研究者として倫理観を修得するため、「次世代研究者倫理」を配置している。また、最先端の知識を学ぶために、課程を構成する全ての教員が、自分の専門領域の「創薬科学専門科目」を開講する。</p> <p>（2）文献読解とその説明・伝達能力を養成するために「薬科学特別演習」を配置する。また、国際社会で活躍するための英語能力を養成するために、英語で開講する科目や「薬科学特別研究」を配置する。</p> <p>（3）自分の研究成果を発表する能力を養成するために「薬科学特別演習」を配置する。また、主任指導教員の指導のもと、創薬科学研究を計画・実行し、論文執筆能力及び発表・討論能力を養成するため「薬科学特別研究」を配置する。</p>	<p>創薬科学における先進的且つ発展的な教育・研究を通して、豊かな創造力、高い見識、卓越した研究企画能力、強いリーダーシップ、さらに国際的視野で活躍できる能力を備えた、自立した真の研究者を目指す人。具体的には、製薬企業等において新薬開発に関する研究や企画立案に携わる人、大学教員、公的機関での研究者、医療・厚生・薬事・環境等の分野での行政担当者などとして活躍する人。</p>
	【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】
	<p>（1）学修成果の評価基準・方法は各開講科目のシラバスに示している。</p> <p>（2）ディプロマポリシーに掲げる3つの資質・能力と学修成果の総合的な評価は、研究成果が審査付きの学術誌に公表され、研究成果を記述した学位論文を作成し、学位論文に関する口頭発表・討論の審査により実施する。</p>	<p>入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定します。将来、本学が求める人材として活躍を目指す学生であれば、経験した学問分野を問わずに受け入れます。</p>
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】